

『学会開催報告』

「食」による
生活習慣病予防医学の展開

Diet and the prevention of lifestyle-related diseases

金沢大学医薬保健研究域医学系血管分子生物学

山本 靖彦

去る平成25年11月21日、KKRホテル金沢において金沢大学次世代重点プログラム・第四回脳・肝インターフェースメディシン研究センターシンポジウム『「食」による生活習慣病予防医学の展開』が当該研究センターの井上啓教授を代表世話人として開催されました。

このシンポジウムは、平成22年度にスタートしてから今回で4回目を迎えました。臓器連関に基づく生体恒常性維持機構を応用し、「食」または「食品成分」による確かなメカニズムを有した生活習慣病予防法の開発を目標に、産官学コンソーシアムの形成を目指して、年一回この時期に行っています。食品科学・農学、医薬学、環境学など幅広い領域を横断し、積極的に情報・意見の交換を行う場としても活用されています。「食」あるいは「食品成分」に関してのシーズ候補から実際にサプリメントとして実用化されているものの生活習慣病予防・治療効果を検証し、最終的には「エビデンスに基づく食(Evidence based functional dietetics)」の生活習慣病予防・治療の拠点形成を行うことを目的としています。

今回の第四回『「食」による生活習慣病予防医学の展開』では、全国から8施設29社、計96名の参加者と11題の一般講演発表があり、基調講演は富士化学工業(株)アスタリール(株)の西田光徳社長に「天然アスタキサンチンは世界を救う」という演題でご講演いただき、特別講演は東京大学大学院農学生命科学研究科食品生化学分野の佐藤隆一郎教授に「脂肪細胞脂肪滴形成の分子基盤と抗肥満活性食品成分の探索」という演題でご講演いただきました。盛会裡に最新の知見、研究の進捗状況の発表と活発な情報交換が行われました。中村信一学長、山崎光悦副学長・理事(研究担当)、田中隆治星薬科大学学長・元本学副学長・理事、井関尚一医薬保健学域研究域長、山本博医薬保健学総合研究科長にもご臨席いただき、外部アドバイザーである国立国際医療研究センター・春日雅人理事長、東北大学農学研究科・宮澤陽夫教授からはこの取り組みへの今後の期待と厳しい講評をいただきました。さらなる連携や共同研究推進への機運が高まることが期待されます。

最後に本シンポジウム開催にあたりましてご支援、ご協力を賜りました金沢大学関係各位、脳・肝インターフェースメディシン研究センター事務スタッフの皆様方、最後になりましたが金沢大学十全医学会からご後援に対しまして改めて心より御礼を申し上げます。

